資料４－１

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人病児保育をつくる会
	記入者名	三上　久子
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村　雄貴

1｜協働事業の概要

協働事業名	緊急サポート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人病児保育をつくる会
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】 緊急性を伴う預かりを行うことにより、保護者の仕事と育児の両立を支援する。 【目標値】 利用件数 40 件	
事業の内容	小学生まで児童を対象に病気、急な出張、保育施設での急な呼び出しがあった場合の送迎など、緊急性を伴う預かりを会員同士の相互の助け合いで行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用件数 12 件（預かり 2 件、送迎 10 件）、利用会員数 216 名、協力会員数 26 名	
協働事業決算	総額924，000円　（うち市負担分924，000円）	
	簡単な内訳	委託料　（内訳）人件費　657，519円 広報費　41，555円 講習会費用　64，869円 保険費用　9，713円 通信費　42，139円 一般管理費　91，667円 その他　16，538円
実施期間	令和3年4月1日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月２０日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 サポート会員に係る講習会の実施時期や事業内容について共有を図った。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 サポート会員に係る講習会の周知方法を改め、受講者が増加するような改善策を図り共有した。		

資料４－２

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村　雄貴

1｜協働事業の概要

協働事業名	ホームスタート事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】育児に不安を抱えている保護者を対象に家庭訪問を通じて育児相談を行い、保護者の孤立を防ぐ。 【目標値】訪問回数：220回	
事業の内容	未就学児を抱える引きこもりがちな親に対して、一定のノウハウを身につけた地域ボランティアが自宅へ出向き、何気ない会話のなかで孤立感を防止し、児童虐待を防止することはもとより、家族のエンパワーメントを図ることで子どもの利益を実現する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	訪問回数：253回 ビジター数：33名	
協働事業決算	総額1，524，748円（うち市負担分1，524，748円）	
	簡単な内訳	人件費：1，158，528円 研修費：　113，900円 通信費：　60，000円 消耗品：　20，000円 交通費　：80，000円 その他：　26，120円
実施期間	令和3年4月1日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月１９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナ禍において、ビジターを家に入れるというリスクがあるにもかかわらず利用希望が多い状態であることを共有した。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 感染予防対策について徹底しながら、多様化するニーズに対応できるよう、ビジター（訪問支援員）のスキルアップと人員確保についての必要性を共有した。		

資料４－３

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	記入者名	中島　眞由美
	部署名	子育て支援課
	記入者名	中村　雄貴

1｜協働事業の概要

協働事業名	子育て支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人よしかわ子育てネットワーク
	行　政	子育て支援課
事業の目的及び目標値	【目的】児童福祉法に定められた子育て支援事業の一つ。地域における子育てを支援するため、子育て中の親子の交流の場の提供、子育て相談、地域の子育て関連情報の提供など、子育て支援センターの運営を行う。(美南子育て支援センター及び中央子育て支援センター) 【目標値】 利用者数(延べ)　合計9，000人	
事業の内容	(1)子育てサロン等子育て支援事業の展開 (2)出前講座の開催 (3)吉川市子ども・子育て応援サイト「よしよしねっと」の管理運営	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	利用者数(延べ) 美南子育て支援センター:7，109人 中央子育て支援センター:5，447人	
協働事業決算	総額13，563，000円　(うち市負担分13，563，000円)	
	簡単な内訳	人件費　12，712，955円 消耗品　80，000円 負担金等　65，200円 研修費　15，000円 講師謝金　60，000円 賠償保険等　45，130円 その他　584，715円
実施期間	令和3年4月1日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月１９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 提供されている備品などについて、現場目線の意見が取り入れられるなど、それぞれの立場を尊重し合える関係性が得られた。 目的のすり合わせをして、目的に合った行動の選択を共有できた。 【行政⇒団体】 同上		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 支援センターを運営するうえで、疑問や不安などを感じた時は、言語化して共有し、より目的を意識した行動の選択が出来るように改善を図った。		

資料４－４

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部長寿支援課
	記入者名	野口　英里子

1｜協働事業の概要

協働事業名	老人福祉センター運営事業	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、老人福祉センターの指定管理者として施設の管理をするとともに、高齢者に対して各種の相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションの供与などの運営をすることを目的とする。	
事業の内容	老人福祉センターは高齢者の教養の向上、健康の保持増進、社会参加の拡大、いきがいづくりなどを目的に設置された施設である。平成18年度から吉川市連合長寿会が指定管理者として運営していたが、令和2年度より NPO 法人たすけあい・よしかわが指定管理者となった。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　施設利用状況 令和3年度　利用者数:14，270名　利用団体数:435団体 2　寄り日開催状況 令和3年度　クラブ数:87団体　参加人数:941名 3　自主事業 介護予防・健康チェック　回数:4回　参加人数:36名 ぱれっとカフェ　回数:11回　参加人数:139名 ぱれっとシアター　回数:7回　参加人数:152名 スマホ教室等　回数:32回　参加人数:153名	
協働事業決算	総額　29,274,000　円　（うち市負担分　29,274,000　円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和3年4月1日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。s

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月１２日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 コロナの影響はあるが施設利用者が戻りつつある。いまだ演芸大会や高齢者スポーツ大会などの大きなイベントは中止している。一方で、老人福祉センターを活動拠点にサークル活動が増加、施設整備を行いながら自主事業を展開することができた。いままでセンターを利用したことがない高齢者が参加するような企画運営を続けていきたい。 【行政⇒団体】 スマホ講座をはじめコロナ禍で求められる事業の展開をしている。引き続き広い視野で利用者の拡大に努めてほしい。また、以前からの利用者との調整もお願いする。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 【団体】 今後も様々な角度から自主事業を検討および展開し新規の利用者を増やしていきたいと思う。 【行政】 広報よしかわにて老人福祉センターで行われるイベントを掲載するなど、引き続きPR活動や行政としてできることに協力していきたい。		

資料４－５

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月28日	
記入者	団体等名	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	記入者名	代表理事　野田　妙子
	部署名	健康長寿部長寿支援課
	記入者名	野口　英里子

1｜協働事業の概要

協働事業名	生涯現役の養成事業～世代を越えた交流による、元気シニア創生とまちづくり～	
事業の実施者	団体等	NPO 法人たすけあい・よしかわ
	行　政	健康長寿部長寿支援課
事業の目的及び目標値	本事業は、これまで地域社会と関わる機会が少なく地域デビューに結びついていない男性シニアや、これから退職時期を迎え地域デビューを希望する男性シニアなどに向けた地域活動等への参加支援を実施することで、地域デビューへの不安を取り除くとともに地域活動等への参加促進を図ることを目的とする。	
事業の内容	男性シニアの地域活動などへの参加を後押しするため、NPO 法人たすけあい・よしかわに事業を委託し、シニア元気塾（グループ別活動）を実施した。また、シニア元気塾たまり場の運営を行い、参加者の自主的活動の支援、交流、情報交換を行った。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	1　シニア元気塾の開催 野菜作り、高齢者福祉の増進（福祉有償運送事業）、スポーツで子どもたちと交流、吉川市歴史探訪・ウォーキングの4グループで活動した。 参加者数：延べ 569 名 （福祉有償運送事業については 1,089 件の利用があり、7,215 キロの運送を行った） 2　シニア元気塾たまり場の開催 毎月第1・第3水曜日に平沼地区高齢者ふれあい広場において、参加者の自主的活動（笑いヨガ、歌声喫茶）の支援、シニアへの情報提供と相互交流の場作りを行った。 参加者数：延べ参加者数 80 名	
協働事業決算	総額　982,000　円　（うち市負担分　982,000　円）	
	簡単な内訳	委託料
実施期間	令和3年4月21日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　■委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月１２日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 多くの市民に参加してもらうには企画の信用性や公共性の担保が必要であり、行政の支援はとても重要だった。コロナ禍において感染対策をしながら、参加者の自主的な活動の支援が重要である。また持続性のある事業展開のために子育て世代も巻き込んでいきたい。地域に根ざした市民団体の力という強みと役割を活かして、住民に寄り添う活動が確実に拡大できている。 **【行政⇒団体】** 平成29年より継続して本事業の取り組みを行っている。コロナ禍において活動やイベントの企画運営が困難な状況であるが、各グループで工夫し男性シニアおよびアクティブシニア層の地域活動の参加促進に努めていた。以上のことについて情報共有を図れた。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **【団体】** 事業を引き続き行うとともに、持続性のある事業展開を目指していく。次年度は子育て世代を巻き込み新たな活動の創出につなげていく。 **【行政】** 引き続き男性シニアの地域活動の参加促進を図るため、新規参加者の募集や団体の取り組みについてPRや広報を行うなど支援を行っていく。		

吉川市協働事業評価シート 2021.ver1.3

資料４－６

提出日	令和3年4月28日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子、学習部会長　郭　育子
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	斎藤　歩美

1｜協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	主催：吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など) 共催：吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など) ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。 ※コロナ以前は毎週火曜日(祝日と第5火曜日は休み)に実施していたが、新型コロナの影響でR3.8～9月を除く第2・第4火曜日のみ開催。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	・日本語教室　第二、第四火曜日　午前の部(10時～12時)、夜間の部(19時～21時) 年間39回実施　※R3.8～9月は未開催。 ・参加者延べ人数 午前の部　学習者78人、スタッフ116人 夜間の部　学習者20人、スタッフ70人 合計　学習者98人、スタッフ186人	
協働事業決算	総額　63,475円　（うち市負担分　0　円）	
	簡単な内訳	支出　63,475　円 （日本語教室　勉強会講師費用　オンライン用ヘッドホン　フェイスシール） ※市から吉川市国際友好協会への補助金55万円 うち日本語教室への補助率10/10、63,475円補助
実施期間	令和3年4月　1日　から令和4年3月31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月２８日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題(共有・認識の差等)を相手へ伝えましたか。(記述式) 【団体⇒行政】 コロナの関係で活動が中止になった時でも市役所の窓口で開催の変更や中止案内など学習者個人からの問い合わせにも窓口となって取り次いでもらったお陰で連絡などスムーズだった。 導入したオンラインを活用し日本語教室の学習者とスタッフの交流事業（オンライン茶話会）も実施することが出来た。 【行政⇒団体】 ・コロナ禍の中、隔週で教室を再開することができたことや、団体主体でスタッフのスキルアップ学習会を開催するなど、スタッフの熱意に感謝している。 ・ボランティアスタッフは高齢者が多いため、コロナ禍により屋内・対面・近距離で日本語を教える活動に難色を示すスタッフもおり、安定的にスタッフを確保しながら事業を実施していくのが難しい。参集したくないが活動に参加したいスタッフや学習者に、オンラインで日本語教室を実施するための課題(通信環境や準備する機器、実施方法など)を話し合った。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　○　団体　・　行政　】 ・おあしすでの学習者の減少の一方で吉川美南地区での学習者の需要性が高まり、活動できる　ボランティアの声より新しい日本語教室の場所、時間の検討から新教室の開設を目指す。 ・引き続き学習者へのおあしす教室への宣伝（チラシ、ホームページ等での告知）要継続 ・初心者向けの養成講座の他に経験者用にもスキルアップ講座を実施、ボランティアスタッフの技術向上やより良い活動に向けてスタッフ内での認識を高める。 ・例年冬に行うことが多い日本語スタッフ養成講座は、今年はできるだけ早い時期（夏）に計画　し新規教室のボランティアスタッフの人員確保にも備える。		

資料４－７

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	R4年　4月27日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子
	部署名	学校教育課
	記入者名	久富　芳明

1｜協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	・諸外国から入国（転入）し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会（学校教育課）が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。 ・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	対象となる児童生徒　28人	
協働事業決算	総額489，000円　（うち市負担分489，000円）	
	簡単な内訳	活動単位　一時限　小学校45分、中学校50分 一時限あたりの委託料　1，000円
実施期間	令和3年4月8日　から　令和4年3月26日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：令和４年４月２７日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 支援授業時間毎の活動報告書を支援者毎に作成し、課題を相互に確認することが出来た。 児童生徒により個人差があり、コミュニケーション能力の向上を目指した。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 【団体】 本事業の意図を支援スタッフにも理解してもらい、児童生徒の能力向上をより高める。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		

資料４－８

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年　4月　28日	
記入者	団体等名	三輪野江小学校区子どもの体験活動実行委員会
	記入者名	土屋　真智子
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	新井　瑞穂

1｜協働事業の概要

協働事業名	吉川市子どもの体験活動	
事業の実施者	団体等	三輪野江小学校区子どもの体験活動実行委員会
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により体験活動等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。	
事業の内容	市内の子どもを対象とした事業目的に総活動を実施する団体（実行委員会）に対し、交付金を交付する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和3年度実績 ○三輪野江小学校区　1事業　　50名	
協働事業決算	総額　9，188円　（うち市負担分　9，188円）	
	簡単な内訳	企画・会議費　　510円（うち交付対象　　510円） 子どもの活動費　7，312円（うち交付対象　7，312円） 消耗品代　　1，366円（うち交付対象　1，366円）
実施期間	令和3年4月1日　から　令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年３月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 小規模のほど良い人数で、コロナ感染防止対策を十分に徹底した中で、実施することができた。 【行政⇒団体】 コロナ禍でできることが限られる中で、安全に配慮した上で、子どもの学びの機会を提供した。 今後の感染状況次第ではあるが、まずは例年の規模を目標とし、引き続き活動を支援していく。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 社会情勢を鑑み、感染症対策を徹底しつつ、活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。		

資料４－９

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年 4月28日	
記入者	団体等名	指定管理者OITグループ
	記入者名	松浦　公則・竹林　聡
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	新井　瑞穂・岡庭　直樹

1｜協働事業の概要

協働事業名	市民交流センターおあしす指定管理者事業	
事業の実施者	団体等	指定管理者OITグループ
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリー、中央公民館図書室、旭地区センター図書室の管理運営に関し、指定管理者による適切な業務が遂行されるよう管理監督を行う。	
事業の内容	市民交流センターおあしすや市立図書館をはじめとする各図書室の運営と管理を行うとともに、おあしす運営協議会や図書館協議会を開催する。また、利用者に対する満足度調査を行う。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	（令和3年度実績） おあしす利用実績　　利用件数:6，114件、利用人数:129，284名 市内図書館(室)利用実績　貸出冊数:451，145冊、利用人数:102，828名、 市立図書館入館者数:169，640名	
協働事業決算	総額　230，069，654円（うち市負担分　230，069，654円）	
	簡単な内訳	施設管理業務委託料　230，069，654円
実施期間	令和3年4月1日　から　令和4年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

①事業計画段階

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階　　話し合いをした日：　令和４年３月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 新型コロナウイルス感染症に対する施設運用、利用者対応、ワクチン接種会場使用への対応について、協議・共有し対応した。また、施設老朽化に伴う設備修繕箇所について情報共有し一部対応した。 **【行政⇒団体】** 主にコロナ禍における施設管理、利用者対応、ワクチン接種会場使用対応について話し合った。また、施設老朽化に伴う設備修繕箇所について、限られた予算の中での最良の方法を協議し、対応した。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） コロナ禍における施設運営、施設老朽化に伴う設備修繕箇所等への対応について、運営に支障をきたさないよう、また、利用者の方に安心してご利用いただけるよう対応していくことを話し合った。 記入者【　団体　・　行政　】		

資料４－１０

吉川市協働事業評価シート 2021.ver1.3

提出日	令和　4年　4月28日	
記入者	団体等名	子育て広場プーさん
	記入者名	嶋田　曜子
	部署名	生涯学習課　中央公民館
	記入者名	森　恵子

1｜協働事業の概要

協働事業名	幼児家庭教育学級(赤ちゃんサロン)「ゼロママ集まれ！」	
事業の実施者	団体等	子育て広場プーさん
	行　政	吉川市中央公民館
事業の目的及び目標値	子育て中の母親が抱える子育ての不安・悩みやストレス等を解消する一助となるよう、「子育て広場プーさん」と協働で開催し、年齢の近い子どもを持つ母親が集まる場を提供するだけでなく、専門の講師等から有用な技術を得ることができる事業を展開する。	
事業の内容	わらべ歌、絵本の読み聞かせ、ピラティス、離乳食、ベビーマッサージなど	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	実施回数　全６回 参加者数　30組　60人	
協働事業決算	総額　14，000　円（うち市負担分　14，000　円）	
	簡単な内訳	会場使用料免除 講師謝礼金　14，000円を市が負担
実施期間	令和　3年　4月　28日　から　令和　4年　3月　23日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	×	×
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和　３年１２月２２日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 例年同じ講師でお願いしているが、講師の方が前年以上の内容を毎年工夫してくださっていて、ありがたい。 **【行政⇒団体】** コロナ禍の中での開催状況も慣れていただき、毎回講師の調整なども行っていただきスムーズに開催できている。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） **記入者【　団体　・　行政　】** コロナ対策を講じた形で開催を継続し、状況を見て定員を緩和するなど事前に打ち合わせをしながら進めていく。		

資料４－１１

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年1月31日	
記入者	団体等名	特定非営利活動法人 日本ダイバーシティ・スポーツ協会
	記入者名	中垣　大輔
	部署名	障がい福祉課
	記入者名	江原　千晶

1｜協働事業の概要

協働事業名	Warm Blue2021 in Yoshikawa City	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 日本ダイバーシティ・スポーツ協会
	行　政	吉川市こども福祉部障がい福祉課
事業の目的及び目標値	４月２日の「世界自閉症啓発デー」、４月２日～８日の「発達障がい啓発週間」に関連したイベントを実施することで、障がいや多様性について知る・学ぶきっかけとなること、普及・啓発することを目的とする。	
事業の内容	・市役所ロビーでのWarm Blueアート展示 ・市役所庁舎のブルーライトアップ ・吉川駅南口のなまずモニュメントブルーライトアップ ・オンライン座談会、障がいを抱えたパフォーマーによるパフォーマンス	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	・アート展示では市内の障がい福祉施設に「青」を基調とした作品を募集し、２２点の絵画や立体作品を展示ししたことで、障がいや本取組を知ってもらえるきっかけとなった。	
協働事業決算	総額　133,380　円（うち市負担分　０　円）	
	簡単な内訳	・アート展示用消耗品 ・オンライン開催用
実施期間	令和3年　3月　10日　から　令和3年　4月　9日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、１枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	△
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	△
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	△
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	△
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和３年５月２８日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 展示やライトアップは開催まで試行錯誤をした上で臨み、たくさんの方に興味を持っていただき「知る」きっかけになった。オンラインはリアルタイムでの参加者が少なく、今後は事前収録等の対策を講じて参加者を広く集められるようにしていきたい。 【行政⇒団体】 市内の施設から多くの作品応募があり、来庁者の方に作品を見ていただけたり、自閉症啓発デー・発達障がい啓発週間を知っていただけたことは大きな成果だと考えます。一方で、初めての協働事業だったこともあり、展示スペースや掲示物の事前確認が出来ず、後手後手の対応依頼となったことが課題です。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 来年度以降も継続して事業を希望する場合は、半年ほど前から打ち合わせを行い、内容についてお互いに把握し、進めていくということを両者で認識を統一した。		

資料４－１２

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和4年4月15日	
記入者	団体等名	吉川市自治連合会
	記入者名	髙﨑　康男
	部署名	吉川市市民参加推進課
	記入者名	鈴木　沙織

1｜協働事業の概要

協働事業名	地域課題を地域で解決するための勉強会	
事業の実施者	団体等	吉川市自治連合会
	行　政	吉川市市民参加推進課
事業の目的及び目標値	様々な地域課題の解決に向け、市民と行政との協働で研究を行い、活気と幸福実感あふれるまちを目指す。	
事業の内容	①地域減災班②多文化共生班③自治会課題班の3つの分科会に分かれ、「地域課題を地域住民が解決するための事業」について研究・実施した。 【令和3年度の取り組み】 ①地域減災班…「要支援者の対応」の報告書作成、「吉川減災〇×クイズ」の実施、「中曽根小学校地区6自治会合同　減災プロジェクトX」の実施 ②多文化共生班…「多言語化した自治会加入促進チラシ」の作成、外国人住民に対し、自治会や生活の困りごと等に関するアンケートを実施 ③自治会課題班…「自治会の枠を超えた、新たな地域コミュニティ」組織のモデル地区として、「中曽根小学校区6自治会」を選定し、組織（協議会）形成について議論	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和3年度実績（実施日、参加人数） ①地域減災班…7/27（17名）、9/16（18名）、11/11（18名） 地域減災班（中曽根小6自治会）…4/15、5/19、6/22、7/26、8/31、10/26、11/27、12/16 ②多文化共生班…7/28（10名）、10/13（13名） ③自治会課題班…6/14（8名）、8/3（11名）、10/11（11名）、11/29（9名）	
協働事業決算	総額　236，974円（市負担分なし）	
	【内訳】 地域減災〇×クイズ印刷費：23，684円 地域課題を地域で解決するための勉強会冊子作成費：213，290円	
実施期間	令和3年4月1日　から　令和4年3月31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

「△」は、一部実施できなかった場合に選択してください。

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和４年４月１４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 様々な地域課題を解決するために、自治会関係者だけではなく、困りごとがある当事者（外国人の方等）の話を直接聞く機会をどう増やしていくかが課題である。自治会の枠にとらわれず、多国籍・多世代の生の声を聞きながら議論することで、本当の意味で様々な立場の方に「吉川市に住んで良かった」と思っていただけるまちづくりにつながると感じた。 【行政⇒団体】 自治会の枠を超えた新たな地域コミュニティ組織の取り組みについて、全国的には広がりを見せているものの、当市においては事例がなく、地域の理解もまだ十分でない状況である。コロナ禍で地域のイベント自粛が続き、地域間の交流の場が減少している中で、新たな地域コミュニティ組織への理解をどう深めていくかが課題である。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 年度末に勉強会の活動をまとめた冊子を作成・配布し、これまでの活動内容を周知した。次年度は、新たな視点で地域課題を捉え、分科会テーマを再設定したり、新たなメンバーを加える等、さらに活動内容を広げられるよう、引き続き検討していく。		